

財界九州 10

Since1958. 九州・沖縄の“今”を知る総合情報誌

No.1081



KEY PERSON

財宝グループ 代表 水迫 邦男氏



「へき地のハンディ」逆手に発展を描こう

「この鹿屋市を中心にして4市5町からなる大隅半島は、へき地故のハンディを抱えている。桜島と連なる半島西岸は錦江湾に面しているが、空港があり新幹線が乗り入れる鹿屋島市内まで陸路でも海路でも1時間半以上かかる。私に言わせると、錦江湾は「錦江海」で、こちらから見た鹿児島市内はさながら「海外」だ。

これは経済活動においても大きなマイナスだ。過疎化が進む中、事業を拡大しようにも「人」が集まらない。しかし私は、むしろそんな地域事情を逆手に取って、いかに企業を発展させるかに精魂を傾けてきた。看板商品の天然ミネラルウォーターや温泉水を使った焼酎は、いずれも地元で掘削した温泉水から湧いた温泉水が原料だ。工場や物流センターも地元を集積させ、全国を相手に通販事業を展開することで毎年業績を伸ばし、前期は約170億円を売り上げた。事業の伸長に伴い1000人を超える雇用を生み出し、鹿児島大や熊本大などからも優秀な人材が入社している。今年も当社の製造工場などがあり、私の生まれ故郷でも

ある垂水市と「地域活性化包括連携協定」を締結。現在、同市から買い取った中学校跡地に社員寮を建設、一方では鹿児島市内の繁華街・天文館にコールセンターも建設している。加えて、手前みそではあるが、給与面など社員の待遇向上や女性の管理職登用など時代にあったマネジメントにも力を入れている。これらの相乗効果で福岡市などから大隅半島へ就職する学生などが増え、それが地元で定住人口増をもたらすような将来像を描いている。

交流人口増にも貢献したい。このほど、21の病気や症状に効能をうたえる「天然ラドン療養泉」を中心とした温泉施設を、垂水市内の観光名所「猿ヶ城溪谷」に開業したのもその一環だ。「錦江海」の不便さも逆手に取り、桜島や開聞岳など錦江湾沿岸の景勝地を海上から眺めるクルーズ船や、猿ヶ城溪谷から登山道で結ばれた刀剣山に、大隅半島側からの桜島を眺められるロープウェイを整備するなどのアイデアも温めている。

私は民間の立場だが、へき地故のハンディを逆手に取って、地域に根差した発展を遂げた分、その経済力を生かして、行政だけではなかなか手の届かない部分を支援することができると。わが社のような企業が増えれば、へき地でもあっても、地域に豊かさをもたらすことができるのではないだろうか。

今年の「夏の甲子園」は、大隅半島の歴史に新たなページを書き加える大会となった。その実力を遺憾なく発揮して春の県大会と5月のNHK杯を制した鹿屋中央高(鹿屋市)が、大隅初の代表校の座を射止めたからだ。出場のみならず初戦を突破し、地元を沸かせてくれた。

そんな同校の活躍は「鹿屋」という地名をどう読むか、またそれがどこにあるのかを知ってもらう機会にもなったと思う。テレビ中継を見て「かや」でなく「かのや」だと知

エリアレポート

北九州 街の魅力を「八幡ブランド」で再構築
筑後 「電力自由化」見据えて実証実験開始
佐賀 混迷深める「有田焼400年事業」
長崎 交流人口拡大へ望まれる「具体策」
長崎北 「旧長崎オランダ村」再生へ正念場

熊本 10月から中華航空が「定期チャーター便」
大分 「芸術文化ゾーン」の域内連携を推進
宮崎 東九州道の全通見据え「布石」着々
鹿児島 「中央駅一番街」再開発いまだ足踏み
沖縄 「クラウドアイランド」に整備着々

TOP INTERVIEW

西日本シティ銀行頭取 谷川 浩道氏
「人間の向上」を推奨し企業の伸びしろを拡大
汗をかく姿勢を賞き新たなステージへ」



多様化するニーズ対応が鍵!?

シニア市場